

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

「よりよく『生きる』ために主体的に行動する生徒」の育成を目指し、全職員が三つの部会に分かれて道徳教育を推進してきた。道徳スケッチブックを使用し、小さな道徳と併せて行う1時間の授業を実施した。また、毎時間のワークシートや、学期末のポートフォリオで生徒自身が自分の学びを記録し振り返りに活用した。さらに、ハートフルワードで勇気づけられた生徒たちは、地域や学校の活動に前向きに参加することができた。

1 研究推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
知立市立知立中学校	知立市広見二丁目4番地	0566(81)1370	613人	

2 研究主題

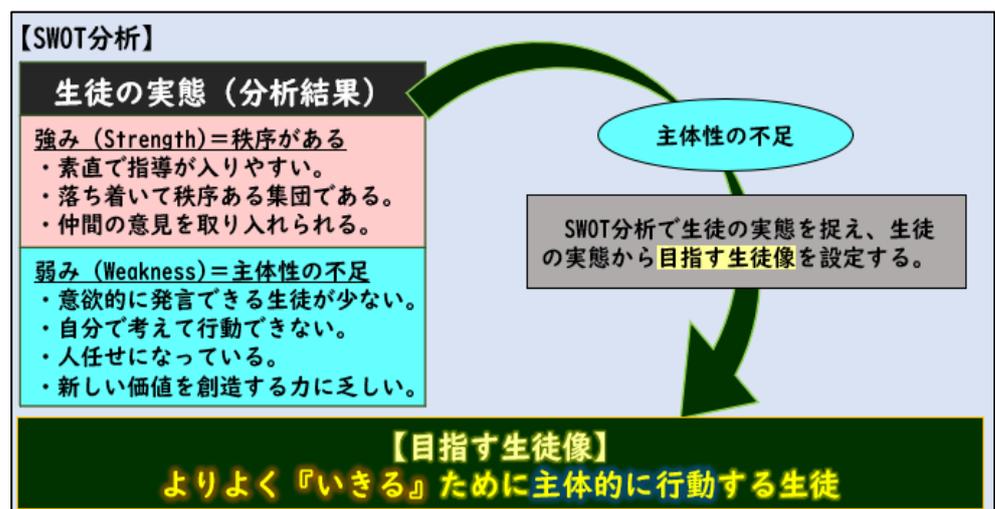
特別な教科 道徳を要とした道徳教育の充実 一指導と評価の一体化

3 目指す生徒像

本校は、平成三十一年度より知立市教育委員会の研究委嘱を受け、道徳教育を充実させてきた。

研究を行う前に教員に対して行ったSWOT分析から、本校の生徒の実態を分析し、目指す生徒像を「よりよく

『生きる』ために主体的に行動する生徒」とした。(資料1)



資料1 目指す生徒像

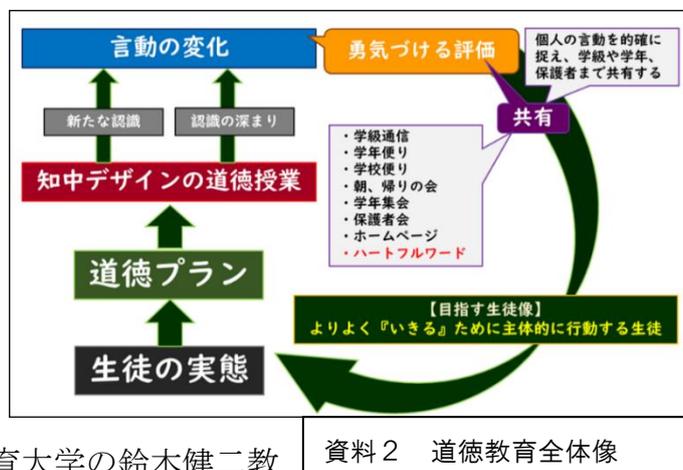
4 研究の概要

(1) 研究組織 三つの部会

道徳教育を充実させるために本校では、道徳教育全体像を作成し、それをもとに研究に取り組んだ。

本校の「道徳教育全体像」の柱を三つとし、それぞれに部会を立ち上げ全職員がいずれかの部会に所属し研究に取り組んだ。

(資料2) 一つ目は、生徒の実態を捉え道徳年間指導計画の作成を行う「道徳プラン(年間指導計画)部会」。二つ目は、生徒の認識の変容を促す知中デザインの道徳授業を追究する「授業デザイン部会」。三つ目は、生徒の認識の変容から起こる言動の変化を教師が的確に捉え勇気づけるハートフル活動を追究する「ハートフル部会」である。中でも、愛知教育大学の鈴木健二教授が提唱する「小さな道徳」の理論を授業に取り入れた「知中デザインの道徳授業」と、生徒を勇気づける「ハートフル活動」に力を入れてきた。授業で『いきかた(生き方)(生き方)』を考え、行動しようとする生徒を教師が勇気づける活動を行うことで、目指す生徒像である、よりよく『いきよう』と主体的に行動する生徒を育ててきた。



資料2 道徳教育全体像

以下は三つの部会の仮説である。

道徳プラン部会 研究の仮説

生徒の実態を捉えた上で、目指す生徒像を設定し、行事との関連を意識しながら、道徳プラン(年間指導計画)を作成すれば、道徳の授業を要にした、道徳教育が可能になるだろう。

授業デザイン部会 研究の仮説

小さな道徳と対話的な道徳を組み合わせた知中デザインの道徳授業に教材ならではのねらいを設定し取り組めば、生徒の道徳的価値観を揺さぶり、認識の変容を促すことができるだろう。

ハートフル部会 研究の仮説

認識の変容がもたらす言動の変化を教師が的確に捉え、勇気づける言葉と共に共有すれば、自分の立場や良さを「活かし」、仲間と協働してよりよく「生きる」生徒が育つだろう。

(2) 道徳プラン部会の取組

本校では、道徳の年間指導計画を作成するに当たり、学習指導要領にある「生徒や学校の実態に応じ、3年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする」ことを具体化し「道徳プラン」と名づけた。そして、「主体性が不足している」という生徒の実態を

改善するために、本校では、「秩序」と「自治」の視点で重点項目を設定した。

(3) 授業デザイン部会の取組

① 小さな道德+対話的な道德の授業

資料3が知中デザインの道德授業の構成である。「小さな道德」とは、鈴木教授が提唱する5分から10分程度でできる道德授業のことである。鈴木教授によれば、「小さな道德」は子どもの心を育むだけでなく、教師の授業づくりの力を向上させる効果がある。また、一時間の道德授業を開発するハードルは高いが、小さな道德の構成は基本「教材+発問」というシンプルなものであり、取り掛かりやすい。さらに、小さな道德の授業を考えるに当たり、

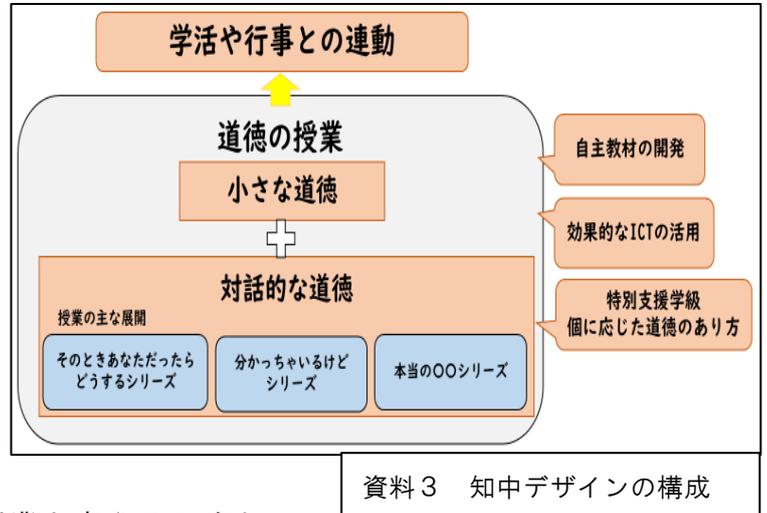
「子どもの興味関心を高める工夫をする」「子どもの思考を刺激する発問を工夫する」という二つの工夫を取り入れるように意識することで、道德の授業づくりの基本を身に付けることができると考えた。

本来であれば、「小さな道德」は、それだけで完結されるものである。しかし、本校では、この「小さな道德」を50分の「対話的な道德授業」と連動させることで、生徒の認識を、より変容させることが可能になるのではないかと考えた。例えば、「小さな道德」と「対話的な道德」を連動

させることで、小さな道德で得た認識を使って、対話的な道德でより深く考えることができる。また、小さな道德で授業の導入部分を済ませることで、生徒の考えを事前に把握し、その後の授業展開を考案したり、対話的な道德で追究活動の時間を確保したりできるようになると考えた。

そして、これらを組み

合わせたものを「知中デザインの道德授業」と名づけた。主な組合せは、「小さな道德」を「対話的な道德授業」の前



にもってくるものだが、場合によっては「小さな道德」を後に設定したり、挟み込んだりするなど、型には様々なタイプがある。

②知中デザイン道德スケッチブック

認識の変容をもたらすために、最も大切なのは、「ねらい」である。知中デザインの道德授業は、ねらいを達成するための手立てにすぎない。しかし、このねらいを設定するのが難しい。そのため、本校は、道德教育の研究を始めたときから今まで、このねらいを最も議論してきた。その追究活動を通して作成したのが「知中デザインスケッチブック」である。

「知中デザインスケッチブック」とは、知立中学校が独自に形式を工夫した指導案である。(資料4)学級の実態を捉え、教材ならではのねらいを設定するまでの流れが左側には書けるようになっている。また、右側は、小さな道德と対話的な道德を連動させた本時の授業展開を書くようになっている。

(4) ハートフル部会の取組

本校の道德教育全体像は、一部の生徒に見られる言動の変化を的確に捉え、勇気づけの言葉で広く共有することで、生徒集団を育むものである。その勇気づけの方法として、ハートフルワードという掲示物に取り組んだ。

ハートフルワードとは資料5のように、学校生活の中で現れる生徒のよい行いや、道德の授業で学んだことが日常であらわれている場面の写真に、教師からの勇気づけのメッセージを添えて掲示するものである。各教室に掲示するスペースをつくり、学年ごとに取り組んだ。

10月27日



「静」かに魅せる

佐藤先生が言っていた
「静」と「動」の切り替え
しっかりと意識して
先生に魅せてくれた人がいました
かっこよかったぞ!
体育大会本番では2年生全員で魅せてほしい

資料5 ハートフルワード

5 研究計画

月	実施内容
4～5月	・校内研究組織発足、主題研究(道德)の方針・重点目標の設定、研究の手立て等検討
6月	・生徒と教師、保護者への道德アンケート、意識調査実施 ・学校訪問(学校教育課による指導) ・地域行事7万人クリーンサンデーとつなげた小さな道德 ・3年命の教育とつなげた小さな道德
7月	・1年安城警察のSNS講演とつなげた道德授業
8月	・年間指導計画及び全体計画の別葉の見直し ・三河教育研究会 道德部会 夏季研修において発表

	<ul style="list-style-type: none"> ・現職教育 愛知教育大学 鈴木健二教授「おもしろい道徳授業をつくる」
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・主題全体授業 2年キャリア教育とつなげたユニット型道徳教育 ・現職教育 愛知教育大学 鈴木健二教授 「より深いねらいを設定するための教材研究」
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・1年防災教育とつなげたユニット型道徳教育
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主任による公開授業 ・道徳の評価についての研究
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・3年 主題学年授業 ・1年 防災フェス 講義 「防災」「地域貢献」 ・現職教育 鈴木健二教授「指導と評価の一体化」 ・生徒と教師、保護者への道徳アンケート、意識調査の実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルブック発行 ・2年生 キャリアフェスティバル ・研究のまとめ ・学校関係者評価委員会

6 実践内容

(1) 令和3年度までの成果と課題

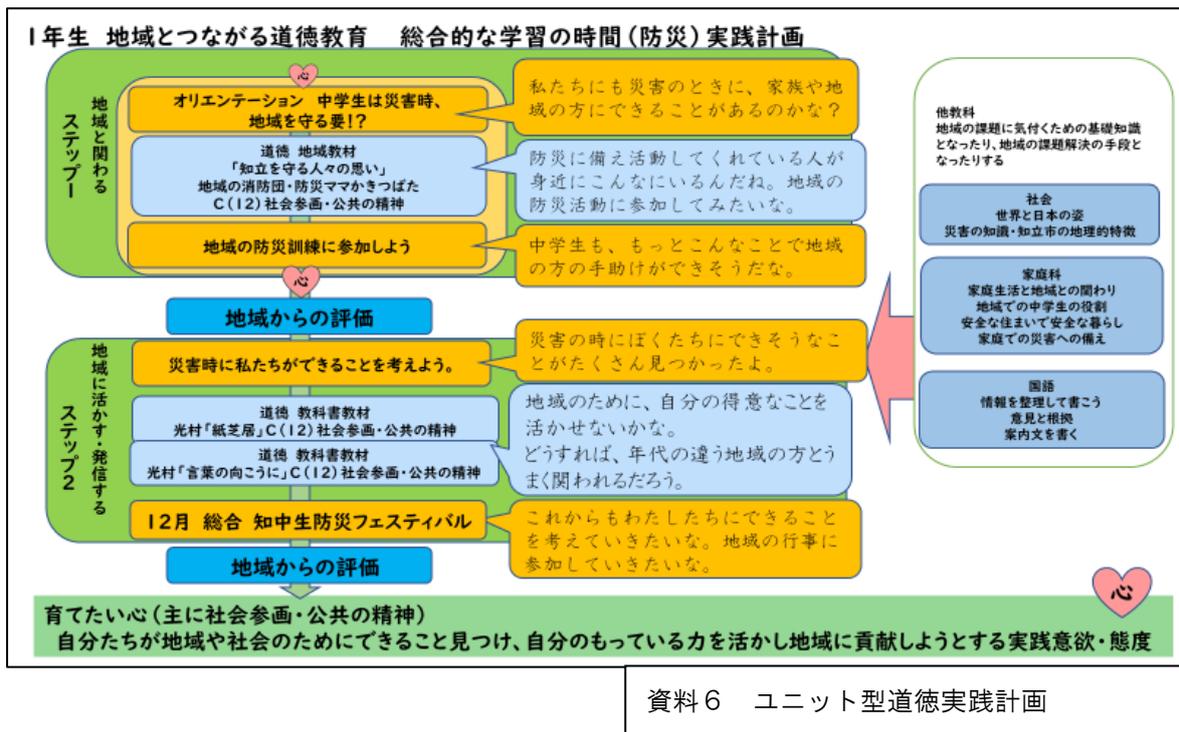
道徳プラン部会では、主体的な生徒の育成を目指して、重点項目を自治・秩序に関する内容としてきた。今年度の初めに行ったアンケートにおいて2・3年生は、知立中学生のよさを「礼儀正しいところ、決まりやルールを守れるところ」と回答した生徒が多く、主体的に集団を目指す土台はできつつあるといえる。しかし、知中生の改善したいところに「積極的な行動」をあげる生徒が多かった。昨年度までは、年間計画を立て行事と関連するように教材を配置したものの、コロナ禍による行事の縮小や変更の中、学校行事と道徳の学びをつなぐことが十分にできなかった。よって、今年度は行事と道徳との関連も図り、生徒が授業で高まった道徳性を生かし主体的な行動を見せる機会の確保を意識した。また、自治・秩序を前半に固めることで同じような授業内容が連続することもあるので、意欲を継続できるように授業展開を工夫し、子どもたちの学習意欲の継続を目指した。

授業デザイン部会の課題としては、昨年度までの3年間の研究期間のほとんどがコロナ禍で学校の教育活動に制限があったことで、授業での対話活動においては、十分に研究することができなかったことである。教師の教材開発力の向上は見られたものの、生徒が語り合いながら考え議論し、多面的・多角的な考えを広げたり、考えを深めたりすることについての研究においては不十分であった。今年度は生徒同士の授業の中での関わり合いを活発にし、多面的・多角的なものを見方を育んだり、考えを深めたりできる授業展開や教師の授業力向上を目指した。

ハートフル部会では、ハートフルワードの活用によって、学校生活において教員が生徒の善い行いを見つけて共有するという教員の生徒を見る目が育ち、生徒がハートフルワードを作ることで生徒同士の認め合う雰囲気が出た。課題としては、ハートフル活動で目指す、「道徳の授業で育まれた道徳性が表出した場面をハートフルワードで評価する」ことが不十分だったことである。今年度は、道徳の授業を行う際に、生徒が授業をくぐり抜けた姿を教員がイメージし、その姿をハートフルワード等を使い共有することにした。

(2) 令和4年度 実践意欲態度を育てるためのユニット型道徳の構想

令和4年度は、昨年度までの研究を生かして、学校の道徳教育で育んだ道徳性を地域にまで派生させることを目指した。主に総合的な学習の時間等と道徳を連動させるユニット



型道徳を構想し、その中で効果的に地域教材を活用することに取り組み、よりよく『いきよう』と自分の力を地域に活かす生徒・地域に生きる生徒を目指して実践を行ってきた。

例をあげると1年生は、総合的な学習の時間に行う防災教育と、道徳の授業を一つのユニットとして実践を行った。(資料6) このユニットでの道徳教育で育てたい心を「自分たちが地域や社会のためにできることを見つけ、自分のもっている力を活かし地域に貢献しようとする実践意欲・態度」とし、ユニットを構想した。

地域の総合防災訓練の前に、社会参画やボランティアについて、地域の消防団の活動等を教材とした授業を行うことで、総合防災訓練に意欲的に取り組む姿が見られた。(資料7) 地域の方と実際に関わり、自分たちでも地域の役に立て



資料7

防災訓練に参加し地域の方と関わる生徒

るということを実感することができた。また、防災フェスに向けた道徳で、「勤労」や「個性の伸長」などの項目の道徳授業を行ったことで、自分の力を地域の方のために役立てようという意欲が高まり、12月の防災発表会知中防災フェスを開催した。

(3) 令和4年度 地域とつなげるための小さな道徳の有効的な活用

今年度は、小さな道徳を道徳の授業とつなげるだけでなく、地域行事や、地域の方の講演会等と連携させる取組も行った。小さな道徳の教材作成は、生徒が地域に意識を向けることをねらって行った。

① 地域行事とつなげる

知立市で毎年行われている地域の清掃行事「7万人クリーンサンデー」に向けて、本校の教員が、地域でプロギング（ジョギングをしながらゴミを拾うニューフィットネス）を行っている団体の取材を行った。教員も自ら活動に参加しゴミを拾う様子を見せることで、地域の方と活動するよさを体現し伝えた。（資料8）

また、生徒自身が7万人クリーンサンデーにおいて活動している様子や地域で見つけたごみの写真をタブレットで撮影して、1年生全生徒と共有するなど、参加者の活動を広めることができた。



資料8 地域のプロギング活動を教員が取材した動画

② 地域講師の講演とつなげる

本校では、毎年、知立市保健センターの職員の方を招いて3年生対象に命の教育を行っている。これに向けて、3年生の教員が、自分の経験や体験から、命や家族に対する思いを語る小さな道徳の教材を製作し、命の教育の前に、生徒がそれを視聴した。（資料9）生徒が命や家族について小さな道徳で事前に考えたからこそ、保健センターの方の話の話にも真剣に耳を傾け、性教育の知識だけにとどまらず、自分や仲間の命を見つめるよりよい時間になった。



「家族の存在」



「成長」

「あなた」という、
「一つの命の大切さ」
を考えましょう。



「命の誕生」



「命は奇跡の連続」

教員が家族や命について語る小さな道徳



保健センターによる命の教育

資料9 地域の講演と小さな道徳の連携例

②生徒の学習状況や道徳性に関わる成長の様子

生徒自身が自らの成長を振り返ることができるように、多くの授業で、その授業で考えるテーマについて、授業前と授業後の変容がわかるようにワークシートに記述することにした。(資料10)

また、学期末には、それまでの道徳の授業の学びを振り返り特に印象に残り、自分の成長につながったと思う道徳科の授業を振り返るための時間も設定した。振り返りは、ロイロノートを活用し、資料11のようにまとめた。

このような生徒自身の振り返りや、資料のような道徳の授業が学校行事等に生きた記述等をもとに、また、総合学習等と関連したユニット型道徳教育では、ユニットを通して育みたい道徳性の変容がみとれるようにユニット専用のポートフォリオを活用して実践を行っている。

チームの活動を成功させるために大切なことは？

授業前

自分だけ行動などをするのではなく、そのチームのことも考えながらいっしょに行動することで、チームの人を信じられる。

➔

授業後

フォロー-はリーダーに意見を出したり、また、リーダーが指示したことに対して意見を出す方がいいと思う。
リーダーは自分だけの考えだけでなく、フォローの考えも聞かせること、またまたことを指示し、フォローすることがいいと思う。

資料10 授業前と授業後の変容がわかるワークシート

教材名 12 私が働く理由 勤労

学んだこと ⑨これからは〇〇していきたいと前向きになれた授業がある。

以下の項目から、生徒が授業の中で自分にあてはまったものを選ぶ。

選んだ教材を使った授業のワークシートや写真を貼ろう ☆その授業をあらためて振り返ってみよう

働くというのは大人にしか関係ないと思っていましたが、中学生はお金はおもらえないけど、確かに「働いているな」と思えた授業です。この授業を受けた後、掃除や、総合の発表会に向けた準備で、自分の働くで誰かの役に立ちたいと思うようになりました。

番号	多面的・多角的な見方・道徳的な価値の深まり
①	対話を通して考えが深まった授業がある。
②	聞くことで新たに気づけた授業がある。
③	自分の考えを書くことで、考えが深まった授業がある。
④	教材と自分が重なった授業がある。
⑤	自分なら〇〇するなど、自分ごとで考えられた授業がある。
⑥	簡単に解決できない問題に対して、具体的に解決策を考えた授業がある。
⑦	判断に迷う場面に対して、自分なりの根拠をもって判断した授業がある。
⑧	今までの自分は〇〇だったなど、振り返るきっかけになった授業がある。
⑨	これからは〇〇していきたいと前向きになれた授業がある。

資料11 学期末生徒の自身の道徳科振り返り

② 授業後の生徒へのアンケート

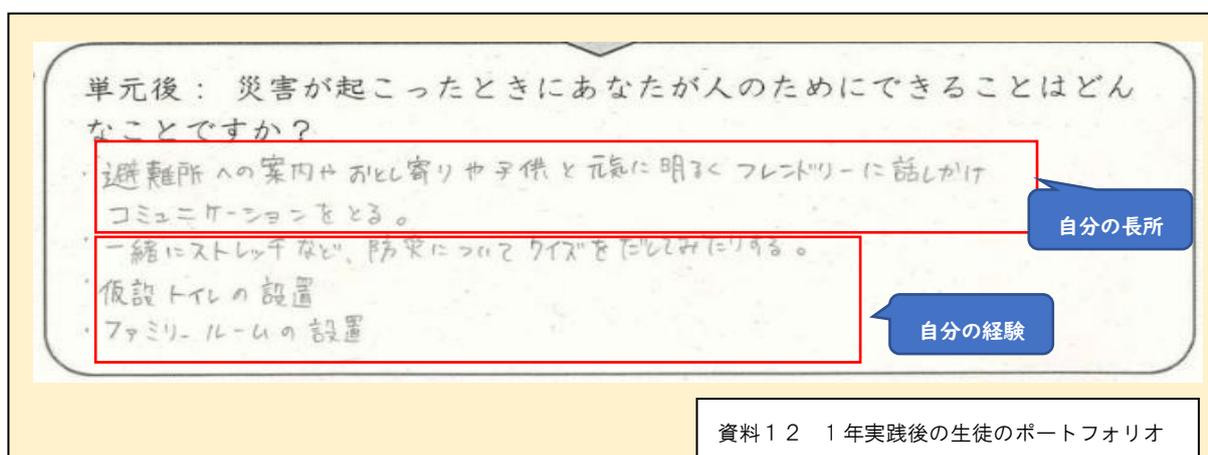
教員自身が授業を振り返るために、授業後にロイロノートのアンケート機能を使い、授業についてのアンケートを活用した。アンケートで問う項目は、ベン図やYチャート等授業で活用したシンキングツールや、話合いの隊形の有効性等であった。

I C Tを活用することで、授業後すぐに結果が把握でき、その授業のねらいに迫るための手立ての有効性について客観的に把握することができた。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

1年生の実践では、「防災」をテーマに地域とつながるユニット型道徳教育を構想し、実践した。地域に生きる人々の思いや、災害時の出来事を扱った道徳の授業を受けた上で、総合学習において地域の方と関わる機会を得た。生徒たちは学んだ道徳性を生かし、活動に参加できた。そして、その姿が評価され、生徒は自信をもって行動することができるようになった。ユニット型道徳教育後のポートフォリオの記述から、実践を通して育みたいと考えていた「自分たちが地域や社会のためにできることを見付け、自分のもっている力を生かし地域に貢献しようとする実践意欲・態度」が見て取れた。(資料12)



また、小さな道徳は、全学年の道徳の授業だけでなく、行事の導入としても活用した。地域行事の前に、その行事に関わる動画を作成して見せることで、生徒が行事に携わることの意義を感じることができていた。さらに、生徒の行動をハートフルワードによって価値づけたことで、自信をもって行動する生徒が増えた。仲間の行動をハートフルワードで認めることができる生徒も増えた。

本研究において目指す生徒像「よりよく『生きる』ために主体的に行動する生徒」に近づくことができたと考える。

(2) 課題

生徒の授業後アンケートの中には、シンキングツールが課題に対して適切ではなかったという意見や、話合いの時間が足らなかったという意見もあった。また、小さな道徳の資料準備に時間がかかってしまうという面もあった。今後も生徒にとって価値ある道徳を、教員が無理せず楽しんで行えるよう、追究を重ねていきたい。